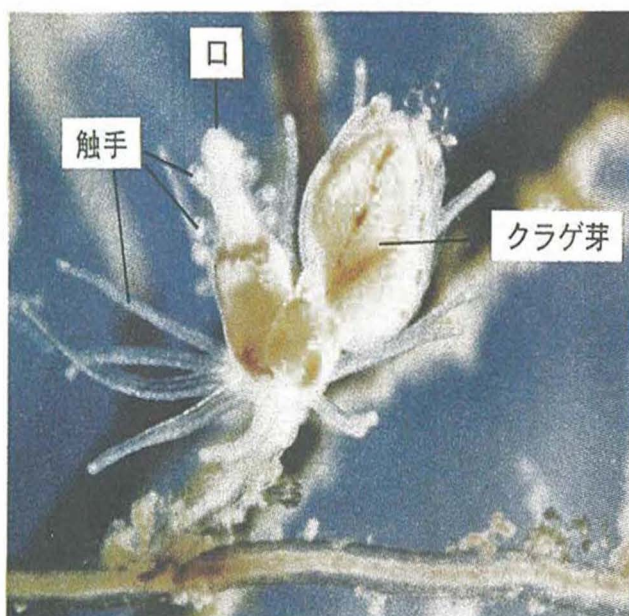


ハネウミヒドラ



△
名前にクラゲと
つかないハネウ
ミヒドラ

久保田 信

28



ハネウミヒドラはクラゲで
ありながら、名前にクラゲと
いう言葉はついていない。そ
の理由はプランクトンネット

で採れることはまずないこと
と、短命ではかないから出合
うことがめったにないから
だ。
形態も省略されており、有
性生殖に特化した形に整えて
いる。つまり、触手もなく、
餌を捕らず、ポリプから遊離
後に有性生殖をすぐに果たす
シンプルな形態に変化してい
る。傘径はわずか1ミ程度し
かない。
海中に泳ぎ出す前、すでに
成熟している。つまり生殖巣
を口柄の周りに
形成する。雌は
大きな卵を数個
だけしかつくら
ない。一方、雄
は口柄の周りを
一周する乳白色
の包みとなり、
無数の精子を詰
めている。夏季

の繁殖時期になると、決まっ
て日の入りに一斉に成熟した
クラゲが遊離する。この遊離
と同時に、卵あるいは精子を
全部放出し、受精卵をつくる。
成熟クラゲは配偶子を瞬間的
に出した後、数時間以内に拍
動しなくなり短い生涯を終え
る。
画像はポリプにまだ付着し
たクラゲである。大きいクラ
ゲはポリプから離れる直前の
姿だ。ポリプは高さ20センチに達
する羽状の群体で、海藻と見
間違ふほどだ。ポリプのヒド
ロ花には2種類の形と長さの
違う触手がある。それらの間
に守られた形でクラゲを形成
する。画像では2個がつくら
れており、手前のものはまだ
発達中で、成熟するまで1週
間ほどかかる。
わが国では、ポリプは本州
中部から南西諸島にかけて分
布するので、スキndaイビン
グで簡単に見つかる。また、
大型の本種のポリプは、全世
界の温帯から熱帯域に広く分
布する。

(京都大学准教授)